ICTで実現するテレワーク 〈導入・活用のポイント〉

With/Afterコロナに向け、これまでのテレワーク相談や導入実績等から テレワークによる職場環境のポイントについてご紹介します。

(2020年11月9日(月) デジタルツールを活用した社内環境整備セミナーより)



テレワークは、現下のコロナ禍の影響で改めて導入を検討される企業が増えている一方、何から取り組んで良いかわからないといった声も多いため、テレワークの環境整備のポイントをお話しできればと思います。

まず、そもそもテレワークとは「ICT(情報通信技術)を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」であり、主な利用形態は①在宅勤務(自宅が就業場所)② モバイルワーク(施設に依存せずいつでもどこでも仕事が可能なもの)③施設利用型勤務(サテライトオフィス等が就業場所)に分類されます。

テレワークの意義・効果は主に①非常災害時の事業継続 ②ワークライフバランスの実現③少子高齢化対策の推進④ 環境負荷軽減⑤営業効率の向上・顧客満足度の向上⑥コスト削減⑦地域活性化の推進⑧有能・多様な人材の確保⑨生 産性の向上等が挙げられます。

本年4月の緊急事態宣言を受け、政府等が在宅勤務推進を要請するなど、テレワーク推奨の動きが加速したところですが、各種の調査・アンケートによると、テレワーク実施企業の割合は、大企業で約半数、中小企業は約4分の1に留まり、職種別の実施率でも、テレワークに馴染む職種と馴染まない職種で差があったり、テレワークが進まない理由として「職場以外でできる業務内容でない」等の様々な課題が挙げられています。

そのような課題を踏まえ、テレワークの環境整備に必要と思われる機能として以下の5つを挙げさせていただきます。

①遠隔会議・ビジネスチャット

在宅で働く相手ともインターネットを介して円滑にコミュニケーションを図ることが望ましく、「WEB会議システム」「電話会議システム」「ビジネスチャット」などの導入が有用です。特に、企業側が把握していない個人所有のIT機器等の利用によるセキュリティ面の懸念もあり、ビジネス利用に限定したセキュアなビジネスチャットの利用が効果的です。

②リモートアクセス

自宅から社内システムにアクセスし、オフィスと同じ環境で業務を実施するための「仮想デスクトップ」や、それらをセキュアに繋ぐ「VPN(仮想専用線)」、そして日常業務を効率的に実施できる多彩な機能を具備した「グループウェア」の導入が有効です。

③オフィスの電話・FAX対応

テレワークでもオフィスと同等の電話応答を実現するため、個人のスマホを内線電話化し、オフィスの外線電話としても発信できる「クラウドPBX」や「ビジネスフォン用のアダプタ」、パソコン上の文書ファイルをダイレクトにFAX送信したり、FAX受信した文書をパソコンから電子ファイルで確認・保存・共有できる機種もあり、ペーパーレス化も図れます。

4業務内容把握・勤怠管理

労働時間の適正管理や、業務の効率化・生産性の向上を図るために、テレワークにおける勤務実態・業務内容を把握することが考えられます。例えば、パソコン業務の内容を視える化できるツールを導入すると、「パソコンログオン・オフ時間」「パソコン内のファイル作業内容」「セキュリティ対策状況」「IT資産管理状況(OSバージョン、メモリ・空き容量等)」の視える化ができ、働き方改革の実現に活用することが有用です。

⑤オフィス環境整備・セキュリティ対策

自社に専門のIT担当者が不在でも、テレワークに適したパソコンの導入から運用、回収、廃棄までをワンストップでサポートしたり、セキュリティ対策環境を構築し、遠隔監視を行いながら、異常発生時にはリモート対応や駆けつけなど、安心・安全なサポートを受けられることが重要です。

テレワークの導入により、皆さまの「働き方改革」をは じめとする、先に述べたテレワークのもたらす効果を得ら れる契機となれば幸いです。



■お問合せ テレワーク相談窓口

Webサイト https://www.ntt-west.co.jp/business/telework/ TEL 0120-765-000 (9:00~17:00 休業日:土曜・日曜・祝日、年末年始)

